令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570408575		
法人名	社会福祉法人　大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームかみやま(金山)		
所在地	秋田県大館市花岡町字前田162番地39		
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和3年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で利用者一人一人に寄り添いながら個々の希望や思いを気軽に話せる雰囲気作りに努め、個々を尊重して笑顔が多く、安心して生活できるように努めている。
・利用者の身体機能にあわせた入浴方法(一般浴・個浴)で対応している。
・毎月の行事の中で季節を感じて頂き、気分転換に努め、生き生きと生活できるように取り組んでいる。
・バックアップ施設(特別養護老人ホーム)があり、研修や看護師や栄養士等から、必要に応じて指導や助言を頂き、安心して生活できるようになっている。

ワンタッチで浴槽が上昇し『のせかえ』がしやすいコンパクトサイズの寝浴に対応した介護浴槽(特殊入浴装置)が配置され、ユニットバスと併用できる。毎月「手作りおやつ会」を開催しており、利用者と共に作り舌鼓。避難訓練への参加協力を近隣住民に案内しており、町内会長の他、近隣工場からは毎回4～5名が参加、移動介助を手伝ってくれている。保育所の園児がハロウィンパレードでホームを訪問した時の、笑顔あふれる写真がとても印象的である。法人内最優秀賞の意識啓発標語が事務室に掲示されている。勤務経験年数に応じ、評価期間や評価者が異なる個人目標・評価制度を導入している。支援者の価値観・価値基準の基ではなく、利用者の立場・視点に立って決定していく利用者主体の支援に取り組んでおり、利用者にとってゆったりとした時間と空間が感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、職員ひとり一人が考えを持って取り組み、努力している。	数年前にBS法(自由にアイデアを出し合う会議形式)を用い、理念の見直しをした。家庭的・家族の絆・地域住民との交流・自分らしい豊かな生活がキーワードとなっている。理念は年度事業計画に詳細に反映され、新任研修でも取り上げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、行事を通しての交流は出来ないが、避難訓練等に協力して頂き、安心した暮らしができるようにしている。	地域との交流の中でも、近隣の花岡保育所との交流が長年続いており、七夕での交流の他、敬老会にはメッセージを書いて届けてくれている。園児がハロウィンパレードでホームを訪問した時の、笑顔あふれる写真がとても印象的である。4ケ月に一度発行の広報誌を近隣の各家々に配布している。公民館祭りに利用者の作品を展示協力し、芸能発表等催しを満喫している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	広報を作成、発行し、日常について知ってもらい理解して頂けるようにしている。また、運営推進会議を2か月ごとに行い、状況を報告したり、アドバイスを頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月ごとに開催し、利用者の状況、グループホームの取り組みを報告している。意見交換を行いながら、サービス向上に取り組んでいる。	家族、民生委員、地域包括支援センター、市役所担当課が参加している。利用者1名がホーム前の道路で事故に遭遇しそうになった件につき、運営推進会議で安全対策を検討した結果、状況をしっかりと把握した上で危険回避が必要な際は、施錠する対策も考慮することとした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事故報告、料金の改正、事業の変更等があったときは速やかに報告し関係を築いている。各事業所・関係機関と協力・連携を図り、関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターとは、法人の在宅部門との連携の必要性から、特につながりが強い。市介護保険係に毎月入居状況の報告等で連絡を取り合っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の開催・マニュアルや学習会で知識を得て、拘束のないよう取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会及び虐待防止対策委員会を毎月開催している。委員会の議事内容は職員会議を通して全スタッフに周知されている。法人として意識啓発標語を全スタッフを対象に募集しており、最優秀賞の標語が事務室に掲示されていた。最優秀賞以外の標語も同じく事務室に掲示され、2か月に一度は交換するとのこと。いずれの標語も、身体拘束防止に貢献している内容である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の開催、学習会、研修等で学んでいる。虐待しないよう虐待を見過ごす事のないよう職員同士の気付きや話し合いを設け支援を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会や研修を通して制度などの知識を学び、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は管理者が必ず説明し、改正などの際は文書などの発送もしている。利用者・家族が納得できるよう説明、確認をして、手続きを勧めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や利用者茶話会、アンケート、意見箱の設置などで意見・要望を頂く機会を設け、運営に反映させる機会がある。	前回の外部評価結果を踏まえ、玄関の「ご意見を聞かせて下さい」の文言を「思いを聞かせて下さい」に変更している。毎月の請求時に個別の近況報告内容を同封しており、家族からの意見や要望を記入できるスペースも設けている。今後アンケートの実施について模索しているとのこと。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設評価や職員会議、施設長との面談の機会があり、意見交換し反映させている。	新任スタッフには、こまめに主任が声かけや聞き取りを実施し、必要に応じ管理者とも面談するよう配慮している。年に1回は施設長との面談を実施している。勤務経験年数に応じ、評価期間や評価者が異なる個人目標・評価制度を導入している。スタッフからの提案により、手洗いへ紙コップを備えたり、夜勤明けと休日のシフトを変更したりしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規程で労働時間や給与については示している。人事考課、自己評価で職員の実績等評価し、向上心を持って働ける環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や学習会を通して、知識向上・スキルアップできている。職員ひとり一人に声掛けをし、力量を把握して業務の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や委員会に参加したり、意見交換や内容を回覧し、交流を通じてサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を大事にし、コミュニケーションを図り意思を尊重している。本人の使い慣れた物を持参してもらうなど、安心して過ごせるようにし、信頼関係を築けるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や関係機関から情報収集し、家族の要望や想いを知り、安心して過ごして頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場、想いを尊重し、家庭的な雰囲気作りに努めながら、明るく楽しく前向きな姿勢で関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の家人へのお便りや随時電話連絡するなどし、情報を共有している。家族関係も把握し、絆を大切にし、本人を支えて行くよう関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や保育園との交流を継続している。希望があれば、本人行きつけの美容院を継続して利用している。	以前からの馴染みの床屋への送迎を実施しており、電話してもらい迎えに行くとのこと。帰宅願望があれば、自宅まで同行した事例も確認できた。利用者が入居前から利用していた花岡図書館へ出かけている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとり一人の個性を把握し、食事や体操などの参加の促しをして孤立しないようにしている。職員が仲介に入り、トラブルにならないよう関わりを大切にしている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退居し、他施設や病院に移っても、情報提供等を行い、利用者、家族との関係性を大事にして相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向、訴えに耳を傾け、支援会議で検討したり、本人に寄り添った支援になるようにしている。	利用者目線に合わせ耳を傾けるよう心がけており、居室で1対1でゆっくりと思いを伝えてもらえるよう配慮している。農学を学んできた利用者がホームの菜園で作物作りをしたり、盆栽を楽しむ方もいたりするとのこと。居室に数多くの民謡のカセットテープを持ち込んでいる方は、民謡のセミプロだった利用者で、事ある度に地区やホームで喉を披露している。当日は朝から、干し柿作りに張り切る利用者の姿が確認できた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	不安なく安心して暮らしていけるように生活歴などを把握したうえで、支援するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や通院で心身状態の把握に努め、生活時間や家事等役割もそれぞれに合ったものを検討し、現状に合わせて無理なく生活できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援会議や職員会議で話し合いの場を設け、本人や家族とも相談し、それぞれの意見を反映しながら介護計画を作成している。	担当者制を導入しており、毎月担当者会議を開催し、日頃の状況の変化や気づき、家族からの意見や要望を把握し、計画に反映させるよう取り組んでいる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を基に申し送りをし、職員間で情報を共有しながら、支援を実践し、計画の見直しをしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練への協力や保育園児との交流、地域の商店の利用などで交流を図りながら、安全で豊かな暮らしができるようにしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医や薬局を利用し、利用者の状態の報告・相談をし関係を築いている。	入居前のかかりつけ医を継続して利用している。嘱託医の大館記念病院には予防接種等を依頼。かかりつけ薬局についても家族の意向に添い入居前の薬局を利用している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	予防接種や感染症対応の際は看護師へ報告・相談し、必要時は受診に繋げている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療連携室や相談員と連絡を取り、安心して入退院が出来るよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に変化があれば家族に連絡し話し合い、病院や他施設の申し込みなど、十分に説明をして、方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	介護度が重くなったり、長期入院によりホームでの生活が困難となったりした時点で、家族と相談し、関係者と話し合い、方向性を検討している。法人内の特別養護老人ホームへの移行が多い現状にある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや学習会などで対応の仕方を確認している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した訓練を行い、連絡網の整備や地域の企業の協力を得て体制を築いている。	地盤が低く、以前に大雨で花岡川が氾濫寸前まで増水した際は、法人内の特別養護老人ホーム・神山荘まで全利用者をピストン輸送した経験を有する。避難訓練への参加協力について近隣住民に案内しており、町内会長の他、近隣の木材関係の工場であるフレックス花岡工場からは毎回4～5名が参加しており、移動介助を手伝ってくれている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守り、人格を尊重した対応、声掛けに努めている。	支援者の価値観・価値基準ではなく、利用者の立場・視点に立って決定していく利用者主体の支援の重要性を認識し、ホームなりに最大限取り組んでいる。利用者にとってゆったりとした時間と空間が感じられるよう努めていることが感じられる。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分りやすく声を掛け、本人の希望を気兼ねなく話せるよう配慮し、自己決定できるよう努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	暮らしの中で、出来ることはやって頂きながら、その人に合ったペースで意向に沿いながら過ごして頂ける様支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服の着回しにならないよう組み合わせを変えたり、本人に選んで頂いている。行事や外出時は身だしなみを整え、おしゃれできるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好を把握、し、食べやすい食事形態や盛り付け、食器を工夫している。また、準備や片づけも一緒に行っている。	以前はホームで調理していたが、栄養バランスを考慮し、現在は栄養士が作成した献立に基づき調理した、特別養護老人ホーム・神山荘の給食を配食している。味噌汁の具は配達、ご飯と味噌汁はホームで作っている。依頼すると、だまこ餅等ホームの行事食にも対応してくれる。毎月「手作りおやつ会」を開催しており、たこ焼き、蜜豆等々、利用者とともに作り舌鼓。大館樹海ドームのタンポ祭りに出かけたり、碇ヶ関の道の駅で個々に好みのメニューを注文して外食を楽しんだりしている。敬老会にはホテルの弁当を用意し、家族も同席し一献傾ける。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し記録している。摂取量が少ない時は促しの声掛けや代替品を用意している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行えるよう、声掛け、見守り、介助をして清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方は、見守りを行い、介助の必要な方は、それぞれに合った時間を見ながら誘導し、自立に向けた支援を心掛けている。	排泄チェック表を利用して、個々の状況を把握し、利用者一人ひとりに合わせたトイレ誘導を心がけている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では毎日ヨーグルトや牛乳を提供し、体操やレクリエーションで体を動かすよう心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決められているが、不調や本人の希望がある場合は無理せず、他の日やシャワー浴などで対応している。また、個々の状態に合わせ個浴槽も利用している。	金山ユニットにはワンタッチで浴槽が上昇し『のせかえ』がしやすいコンパクトサイズの寝浴に対応した介護浴槽(特殊入浴装置)が、銀山ユニットには一般家庭よりは大きめのユニットバスが配置されている。両ユニットの利用者の個々の状態に合わせ、介護浴槽とユニットバスが併用できる態勢を構築している。柚子を浮かべたり、民謡を流して湯舟につかったりしている事例も確認できた。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	落ち着いて休めるような居室の環境作りに努めている。不眠や寝不足の方や希望時には、日中の静養も取り入れている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や通院ノートを活用しながら個々の服薬について把握に努めている。また、状態に変化がある時は通院に繋ぎ、医師の指示を仰いでいる。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた家事を行い、役割を持って暮らして頂いている。また、嗜好品などを購入したり、レクリエーションやドライブに出掛け、気分転換できるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとり一人の希望に沿えるよう、散歩やドライブに出掛け、気分転換できるようにしている。	大館樹海ドーム、碇ヶ関道の駅、花見、桂城公園等々に出かけている。保育所の運動会の観戦も楽しみの一つ。天気の良い日はいつもの散歩コースで散策。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員（事務）が行っているが、本人の希望があった際は、一緒に買い物をしたり、職員が購入するなどしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった時は本人へ取り次ぎ、手紙も家族へ届けたりしている。本人の希望時は電話を掛けたりしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境が保てるよう、清掃や消毒を行っている。また、季節感を感じられるように花を飾ったり壁のレイアウトを四季に応じて変えている。	適切な冷暖房やウイルス対策付空気洗浄機等で快適な環境が保たれ、清潔感のある空間である。季節感を演出する飾り等も過度でなく、落ち着いて過ごせる空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが共用空間となっているが、一人で静かに過ごす事もできるし、ソファーに座って会話ができるスペースもあり、自由に居場所を選ぶことが出来る。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を居室に置いたり、写真を飾るなど、安心して居心地よく過ごせる様にしている。	各居室のドアの色が異なり、間違え防止とのこと。パネルヒーター、クローゼットが備え付け、ベッドと寝具はあえて使い慣れた物を持ち込んでもらっている。居室にテレビを持ち込んでいる方が多い。広くて清潔な居室である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場、居室など、日々使用する場所は分かりやすい表示をし、混乱しないよう工夫している。		